慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	技術創造の戦略 - 技術革新企業への構図 -
Sub Title	
Author	鈴木聡(Suzuki, Satoshi) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第614号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0614

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0614

学生氏名　鈴木　聡　　主査　奥村昭博

副査　古川公成

所属ゼミナール　奥村昭博研　　矢作恒雄

技術創造の戦略
― 技術革新企業への構図 ―

長らく高成長を続けてきた日本の企業も、ここ数年の環境変化により、大きくその戦略や経営方針を見直さなければならなくなっている。特に、内外市場の成熟化、貿易摩擦の激化、商品のシステム化などは、より一層の努力を成長のための企業革新に注ぐよう要請していると言える。

このような状況下においては、これまでの経営をそのまま引き継いで行っていたのでは、様々な面で弊害が出始める恐れがある。

これら弊害からくる企業の衰退を防ぐのが企業革新であるが、それには強力な“きっかけ”が必要となる。

多くの経営者は、その“きっかけ”が技術革新であり、これによって企業は商品のライフサイクルの若返りを図ったり、消費者の多様なニーズに応えられることを知っている。

しかし上述のような技術革新を起こすために、どの様なマネジメントを行ったら良いかは、はっきりと認識できていない場合が少なからずある。

本研究では、技術革新により企業革新にまで発展させようとするならば、企業革新の構図に沿ったマネジメント、すなわち“多義的曖昧性”のコンセプトに基づく戦略関与と、高度な情報創造が必要であるとして、事例研究による検証を行った。

この結果はマトリックスに整理されたが、上述の二つの条件とも満たされている企業は、期間の長短を問わずに（技術開発による）シーズを（市場の）ニーズに結び付けて事業化するポテンシャルが高いことがわかった。また、技術開発の数や、株式市場における評価の双方においても優れていた。